

新春随想

暑熱順化と発汗

北村 豊

コロナのパンデミックによる3年間のブラクがあつて、久しぶりに半島マレーシアの熱帯降雨林、すなわちジャングルの先住民の村へ診療に行つて来た。



私の青年海外協力隊

時代には、共産ゲリラの活動が活発でもあつたため、ほとんどの地域の深いジャングルには軍隊、ジャングルポリス、そして私達先住民局の職員らを除いては民間人は立ち入ることも許されず、半島マレーシアの詳細な地図の販売も禁止されていたが、今は「開発と称

する魔物“により1億3千万年前から続くとされる広大で豊かであった森は減少し、種の多様性も失われていつている。

今回、9月上旬という訪問時期になったのは、10月から3月までは目的地のジャングルがモンスーンによる多量の降雨で、極端に道路状況が悪くなるからである。今回でさえ30cm位の水深の川を何回か横断したが、今現在はすでに先住民の村への道はランドローバーなどの本格的SUVでも無理で、おそらく陸路で確実に行けるとすれば、「戦車“くらい

ではないだろうか…。

今回は総勢21人、うち、医療関係者は私の40年来の旧知の友の内科医2人と私、そしてデンタルナースであり、外国人は私1人のみであった。

今回の私の診療は口腔内診査と抜歯のみであり、ロータリークラブから寄贈された折り畳み式の歯科用木製チエアーを用いて診療を実施した。

ていけるな！という強い気持ちになったものである。

記録的な気温を全国各地で記録した日本で、メディアからは熱中症と共に「暑熱順化“という言葉がよく聞かれ、「汗をかくようにしまししょう」という言葉が標語のように使われた。

落ちる「無効発汗」が多いが、熱帯の住人では「発汗は少ない」が、皮膚血管が拡張する“こ

とにより高い皮膚温を保つて少量の汗の蒸発を促進させて乾燥による熱放散が効率的に行われるという。発汗反応の点からは、両者は真逆である。これからますます気温上昇が続いて行くのは確実であるが、ひ弱な日本人も熱帯圏の住民のような長期順化の「メカニズム“を獲得できないものであるか？

（上高井郡小布施町

信州口腔外科インプラントセンター所長）